鷹を貰い損なった話

寺田寅彦

青空文庫

小学時代の先生方から学校教育を受けた外に同学の友達からは色々の大切な人間教育を受けた。そういう友達の中にも硬派と軟派と二種類あつて、その硬派の首領株からはだいぶいじめられた。板垣退助を戴いた自由党が全盛の時代であつたので、軍人の子供である自分は、「官権党の子」だという理由でいじめられた。東京訛が抜けなかつたために「他国もんのべろしや〜」だと云つていじめられた。そうして、墨をよこさなければ帰りに待伏せすると威おどかされ、小刀をくれないとしでるぞ（ひどい目に合わせる）と云つては脅かされた。その頃の硬派の首領株の一人はその後人力車夫じんりきしゃふになつたと聞いたが、それからどうなつたか一度も巡り合はずそれきり消息を知ることが出来ない。

そういう怖い仲間とはまるで感じのちがう×というのが居た。うちは何商売ふくろうだつたか分らないが、その家の店先に小鳥の籠かごがいくつか並べてあつた。梟ふくろうが撞しゅもく木に止まつてまじまじもつと尤もつともらしい顔をしていたこともあつた。しかし小鳥屋専門の店ではなかつたような気がする。

その×は色の白い女のように優しい子であつたが、それが自分に対して特別に優しい味と柔らか味のある一風変つた友達として接近していた。外の事は覚えていないがただ一事は

つきり覚えているのは、この子が自分にときどき梟をやろうとかほととぎす時鳥をやろうとかまた鷹をやろうとかいう申し出しをしたことである。但しそれには交換条件があつて、おまえのもっている墨とかナイフとかを呉くれたら、というのであつた。自分はこういう訳かその鷹がひどく欲しかつたので、彼の申込みに応じて品は忘れたが彼の要求するものを引渡した。そうしていよいよ鷹が貰えると思つて夜が寝られないほど嬉しがつたものである。鷹を貰つてからのことを色々空中に画いてはエクスタシーに耽つたものと見えて、今でもなんだか本当に一度鷹を飼つたことがあるような氣持がすることがある、もちろん事實は鷹などかつて飼つた経験はないのである。

明日はいよいよ鷹が貰えると思つてさんざんに待ちかねて、やっとその日になつてみると鷹は今ちようどトヤに入っているからもう二、三日待つてくれといふのである。ひどくがっかりして、しかし結局あきらめて辛抱して待つて、さてもういいかと思つて催促すると、今度は何とかがどうかして何とかで工合が悪いからもう二、三日待つてという、その何とかが実に尤もつともせんばん千萬なんばんな何とかで疑う余地などは鷹の睫毛まつげほどもないのだから全く納得させられる外はなかつた。それから……。そういう風にして結局とうとう鷹の夢を存分に享樂させてもらつただけで、生きている實在の鷹はどうとう自分のものにならないでお

しまいになった。はじめに交換条件で渡した品を返してもらったかも知らわなかったか、それは思い出せない。

これなどは幼年時代に受けた教育の中でもかなりためになる種類のものであったと思う。多分十歳くらいのことであつたか、あるいは七、八歳だつたかも知れない。

×の消息はその後全く分らない。

尤も、この頃でもやはりときどきは「鷹を貰い損なう」ことがあるような気がするのがある。

(昭和九年八月『行動』)

青空文庫情報

底本：「寺田寅彦全集 第一巻」岩波書店

1996（平成8）年12月5日発行

底本の親本：「寺田寅彦全集 第五巻」岩波書店

1985（昭和60）年12月5日第2刷発行

初出：「行動 第二巻第八号」

1934（昭和9）年8月1日発行

※初出時の署名は「吉村冬彦」です。

入力：Nana ohbe

校正：川向直樹

2004年6月1日作成

2016年2月25日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

鷹を貰い損なった話

寺田寅彦

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>